



にじのおか

福島県立あぶくま支援学校
令和4年度学校だより 第2号
令和5年10月30日

校長あいさつ

「新たなカタチの創造」

校長 鈴木 龍也

今年5月に、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行したことを受けて、これまで多くの制限を設けてきた学校での活動を見直し、可能な限り児童生徒の学習活動の幅を広げる対応を進めています。各学部の修学旅行や、校外での学習だけではなく、調理など校内での学習についても取組の幅が広がり、友達や先生とのかわりを楽しみながら活動する姿が増えてきていると感じています。

「コロナ前の形に戻す」のではなく、コロナ禍の生活で経験したことを生かした「新たなカタチ」を模索しながら、児童生徒一人一人の自立と社会参加の実現につながる学習の充実を目指しています。本校からの様々な情報発信も充実させるなどして、地域の特別支援教育の中核としての役割を果たせるよう進めてまいります。

重点目標

◇児童生徒一人一人の資質・能力の育成のために、ICT 機器などを効果的に活用し、個別最適化された学びを目指した授業づくりを行う。

ICT 機器は各教科の授業において学習効果を高めるために、授業の導入、振り返りに使用したり、手順や方法を確認したり、話し合いの場面で使用したりと日々の授業で活用し、一人一人の充実した学びへとつながっています。また、多くの授業研究を行う中で、「授業者支援会議」という授業者を支える事後研修を効果的に行うことで、一つの授業からたくさんの授業づくりのアイデアが生まれています。



<確かな学力>

進んで学ぶ 生活に生かす

自立と社会参加

○授業の充実

(1) 個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善

新しい学習指導要領の完全実施から、授業の一コマ一コマが大きく変わっています。単元展開案を基に進められる授業は、単元(授業の一つの括り)を通して何を学んだかを具体的に評価して、次の授業へのステップとしています。また、単元展開案には、個に応じた指導工夫を明記して、より具体的な手立ての基に授業を進めることで、学習効果が高まっています。

(2) 年間指導計画や個別の指導計画の活用

現在、年間指導計画の見直しを全学年で行っています。学習指導要領の指導内容を再度確認し、あぶくま支援学校の児童・生徒に合わせた指導の順序・系統性などの見直しをしています。また、今年度、「自立活動の指導」の様式を見直し、指導にあたっています。児童・生徒一人一人にとって最適な指導ができるよう、様式を活用し、教員間で共通理解を図りながら指導に役立てています。

学校教育目標を達成できるよう、「本校の児童・生徒が目指す姿」を意識しながら、日々指導にあたっています。

<豊かな心>

みんななかよく 共に働く

自立と社会参加

○進路指導の充実

(1) キャリア教育全体計画や進路の手引きの活用 関係機関との協働での支援

キャリア教育全体計画をもとに、自分の思いをしっかりと伝え生活状況が高まるよう、社会的な自立を育てる授業実践に努めています。

学校での活動、家庭での支援、生活の場など様々なところで生きていく力を高められるよう、一つ一つの項目を『進路の手引き』にまとめ、学年懇談の際などに保護者の皆様と一緒に内容を確認し、卒業後の生活にむけた課題を考える機会としています。

卒業後の生活に向け、関係機関の方々に来校いただき支援機関の役割について話を聞く、実習時のアドバイスをもらうなど在学中から進路実現にむけた協働での支援を実施しています。

○生徒会活動や委員会活動の自主的・協力的な取組

(1) 学年や学部内、学部間のつながりを持った活動の実施

小・中学部では、児童生徒が「朝のあいさつ運動」に取り組みました。元気よく明るい笑顔であいさつをしている姿が見られました。

高等部では、生徒会活動を通して、自主的な姿勢や互いに協力する意識を高めました。

また、にじのおか祭りにむけて、小・中学部、高等部の児童生徒で構成される実行委員会が中心になり、協力して準備や企画運営に取り組みました。児童生徒の「元気」と「笑顔」が詰まった動画を作成したり生徒会役員がパネルを展示したりしました。

<健やかな体>

元気な体 健康に生きる

自立と社会参加

○あぶスポタイムの充実

(1) 健康の保持増進と体力向上を目指した取組

小学部は、日々のあぶスポタイムの成果を発揮できる記録会「あぶスポチャレンジ」を年に2回（6月と11月）行っています。校長先生から記録賞を受け取り、大きな自信につながっています。

中学部は、晴天時には異学年でグループを作り、校庭を走っています。雨天時には、各学年で体操や軽運動を行っています。

高等部は、校庭を使用できる時にはランニングや長縄跳びなどを行っていますが、校庭を使用できないときは、教室で動画を見ながらストレッチやダンスをしています。

毎日、継続して朝の運動を行っていくことで、元気な体作りはもちろんのこと、1日の学習に向かう気持ちを整える大切な時間になっています。



小学部あぶスポチャレンジ



中学部 自立活動室での
あぶスポタイム



高等部
教室でのあぶスポタイム

○食育の推進

(1) 給食を活用した食に関する取組

食堂前の掲示板は、食育コーナーとして活用しています。毎朝、小学部6年生の児童が給食の献立の食材を3つの食品群に分けて、掲示しています。毎日食べている給食にどんな栄養があるのかを知り、バランス良く食べることの大切さが感じられるように工夫しています。

小学部による
食育コーナーの掲示



(2) 生活習慣や食生活に関する家庭との連携や理解啓発

11月～12月にかけて、ふくしまこ栄養教室が行われます。希望学年の児童生徒やPTAの学年活動として、市内小中学校の栄養教諭を講師に迎えて、「バランス良く食べること」や「肥満にならない食べ方」「簡単に作れる朝食メニュー」など、実態や要望に応じた講話が予定されています。

○性に関する指導の推進

(1) 児童生徒の実態や発達の段階を踏まえた取組

小学部では、発達の段階を踏まえながら、「からだのかくすところのきまりとやくそく」や「ともだちとのきよ」「からだのへんか」について、計画的に学習をしていく予定です。

中学部では、「いのちのはじまり」「幼児の心身の発達」などの内容について、動画を見たり、赤ちゃんの人形を教材として活用したりして学習しました。

高等部では、産婦人科医の桜井先生を講師に招いて性に関する講話を聞いたり、グループに分かれて実態に応じた保健指導を学習したりします。

9月には、PTAの「健康に関する学習会」が行われました。「薫化舎ふくしま」の今泉祥子さんを講師に迎えて、「思春期のこどものかわり」について講話を聞いたり、グループに分かれて座談会をしたりしました。子どもが周りの人と一緒に生きていくことができるように親ができること、年齢に応じた性に関する知識やマナーをあきらめずに子どもに伝えていくことなど、親としての心構えを改めて考える機会となりました。

今後は、今年度各学部で取り組んだ性に関する指導を振り返り、課題となったことや学校全体としての系統的な指導の在り方について検討を行い、次年度の指導にいかしていきます。



中学部：生まれた時の体の
大きさを学びました。



PTA「健康に関する学習会」

○センター的機能の推進

(1) 地域における特別支援教育（相談・研修）

来校相談や学校見学会、地域の小学校や幼稚園、保育所等に出かける相談・研修支援等を行いました。出かける相談は小学校、幼稚園、保育所からの依頼に加え、放課後児童クラブからの相談が増え、特別支援教育アドバイザーを中心に対応しました。

7月には、地域の教職員を対象とした特別支援教育に関する研修会を開催し、地域からは80名程ご参加いただきました。午前中は、宮城教育大学教職大学院の植木田潤教授をお招きしての講演会、午後は分科会として、日頃の指導での悩みなどについてグループ協議や本校進路指導部の進路講話を実施しました。



(2) 特別支援教育に関する専門性の向上

地域に出向いての相談支援に複数の職員で対応することで、相談者と支援についての協議を行う際、多角的な視点で協議を深めることができました。相談支援を通して、本校職員に地域支援の経験者を増やすことで、支援体制の強化を図りました。

校内職員の地域支援の専門性の向上を目的に、勉強会を開催しました。勉強会では、「学校見学会」を取り上げ、特別支援教育アドバイザーから実際を聞きました。学校見学会の際、見学者にどんなことをどのように伝えているか、どんな質問をよく受けるかなどを知ること、就学に関する考え方や本校が地域からどのように捉えられているかなどについて、共有することができました。

(3) 本校の取組や特別支援教育に関する情報の発信

地域支援センターの取り組みや本校の指導事例紹介等をホームページで発信することに加え、地域向けの学校だよりを作成し本校の周辺の地域の学校や公民館などに配布しました。

○安全で安心して学べる学校

(1) いじめの未然防止、早期発見

児童生徒の実態を踏まえた「いじめアンケート調査」を実施しました。早期発見にむけて、児童生徒からのサインを見逃さず、聞き取りを行いました。認知されたケースについては、丁寧な指導を行いました。

(2) 心身の健康に関する取組

スクールカウンセラー来校相談(年間 8 回)を10月までに4回実施しました。毎回、児童生徒や保護者から相談があり、スクールカウンセラー(臨床心理士)の富森崇先生によるカウンセリングを行っています。

また、さわやか相談(年間7回)では、学校医の佐久間理恵先生による児童生徒の健康相談を行っています。毎月の保健だよりにて実施予定日をお知らせしており、10月までに4回実施しました。

相談実施後は、カウンセラーや学校医の先生とのやりとりを通して、「これまで話せなかったことを相談できてよかった」「今後の参考となるアドバイスを聞くことができた」などの声が聞かれています。

(3) 学習環境の充実(学校事故防止・環境美化)

学びやすい学習環境や生活環境を整え、学びの充実や学校事故防止に努めることを目標に、食堂や校内のトイレ、廊下、特別教室などを教職員で清掃箇所を分担して、計画的に清掃しています。夏休みには、校庭や中庭の除草作業や食堂のワックスがけなどを全学部で一斉に行い、安全で機能的な環境づくりに努めました。

また、校内で緊急の事態が発生した場合に備え、避難訓練を年に2回実施しています。訓練においては、実際に災害が起きた時の状況を想定し、放送から災害発生場所や通行不能箇所等を知り、教師の話をよく聞いて避難場所まで移動する経験を重ねています。